

## Ⅱ．調査結果

### 1 テニス全国大会の消費額試算

#### 1-1 テニスの全国大会について

JTA テニスカレンダー（2013）によると、JTA が 2013 年度に主催、後援、承認、主管、共催および公認をした大会は全部で 645 大会であった。このうち、JTA が主催した全国大会は、ジュニア（小学生から高校生）10 大会、学生 3 大会、一般 5 大会、ベテラン 2 大会、実業団 3 大会の計 23 大会である（表 1）。

JTA は、「全日本テニス選手権」「地域テニス選手権大会」、日本テニスツアー大会および賞金付き大会などに出場する、JTA に選手登録をしたプレーヤーを対象として、JTA オフィシャルポイントランキング（通称：JTA ランキング）を採用している。ポイントは各大会のグレードと結果に応じて付与され、JTA ランキングはランキング対象大会の出場プレーヤーの決定およびその大会におけるシード決定の資料となる。同様に、男子 35 歳以上・女子 40 歳以上のベテランカテゴリーにおいても、ベテランジャパンオフィシャルポイント（以下、ベテラン JOP）を採用し、「全日本ベテランテニス選手権大会」をはじめ JTA および地域テニス協会が主催または公認する競技会のほか、都道府県テニス協会が主催するベテラン JOP 対象大会への出場によりポイントが与えられる。

本調査では、上記 23 大会のうち以下の 2 大会について試算を行った。

- ・全日本ベテランテニス選手権大会
- ・全国レディーステニス大会

表 1 日本テニス協会の主催大会（2013年度）

No.	開催形態	年代	大会名
1	主催	ジュニア	第31回全国小学生テニス選手権大会
2	主催	ジュニア	第40回全国中学生テニス選手権大会
3	主催	ジュニア	2013U-15全国選抜ジュニアテニス選手権大会
4	主催	ジュニア	ダンロップ全日本ジュニアテニス選手権 <sup>13</sup>
5	主催	ジュニア	第34回全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会
6	主催	ジュニア	MUFGジュニアテニストーナメント2013
7	主催	ジュニア	2013RSK全国選抜ジュニアテニス大会
8	主催	ジュニア	2013ダンロップ全国選抜ジュニアテニス選手権大会
9	主催	ジュニア	全国高等学校総合体育大会テニス競技
10	共催	ジュニア	第36回全国選抜高校テニス大会
11	共催	学生	全日本学生テニス選手権大会
12	共催	学生	全日本学生室内テニス選手権大会
13	共催	学生	全日本大学対抗テニス王座決定試合
14	主催	実業団	第28回テニス日本リーグ
15	主催	実業団	第27回実業団対抗テニストーナメント
16	主催	実業団	第52回全国ビジネスパルテニス大会
17	主催	一般	第88回ニッケ全日本テニス選手権大会
18	主催	一般	第49回島津全日本室内テニス選手権
19	主催	一般	第68回国民体育大会テニス競技
20	主催	一般	第37回全日本都市対抗テニス大会
21	共催	一般	第35回全国レディーステニス大会
22	主催	ベテラン	第75回テイジン全日本ベテラテニス選手権
23	共催	ベテラン	日本スポーツマスターズ2013テニス競技大会

資料：日本テニス協会 2013年度テニスカレンダーより作成

## 1-2 ケース1 全日本ベテランテニス選手権大会

### (1) 大会の概要

- ・ 名 称 第75回テイジン全日本ベテランテニス選手権大会
- ・ 開催期間 2013年9月30日(月)～10月11日(金)
- ・ 会 場 東山公園テニスセンター(愛知県名古屋市天白区)

全日本ベテランテニス選手権大会(以下、ベテラン大会)は男性35歳以上、女性40歳以上の5歳刻みのカテゴリーで男女それぞれシングルスとダブルスを行う。最高齢のカテゴリーは男性80歳以上、女性は75歳以上である。参加者は都道府県の代表ではなく、ベテランのカテゴリーの競技会に参加してポイントを得ていれば申し込むことができる。

### (2) 移動費の計算

この大会には秋田、石川、島根の各県からの参加者がいなかった。他の44都道府県からの参加者について、計算方法は以下のとおりである。

1) 出発地は県庁所在地の駅とする。沖縄県については、那覇空港とする。また、兵庫県(元町駅)、福岡県(博多駅)、鹿児島県(鹿児島中央駅)は、県庁所在市の名と出発する駅名が異なる。

2) 航空機の使用については、

- ・ 陸路では名古屋駅まで5時間30分以上かかる
- ・ 空路利用の方が陸路より2時間以上早い

のいずれかを満たす場合に選択するものとする。該当するのは、北海道、青森県、秋田県、宮崎県、沖縄県の5道県である。

3) 経路にバスを含めるのは、以下の場合である。

- ・ 出発地が徳島県の場合、鉄道より時間短縮が見込めるため徳島駅から高速バス可
- ・ 出発する駅から最寄りの空港までのバス(札幌駅から新千歳空港など)

他の高速路線バスは使用しないものとする。

4) 片道100kmを超える場合は、有料特急の料金を適用する。

5) 特急は新幹線を含め指定席料金を計算する。

6) 鉄道、航空機ともに往復割引を利用しない。

これらを条件に運賃検索サイト「ジョルダン」を使用し、1)の出発地からJR名古屋駅までの料金を算出した。これに、名古屋駅から市営地下鉄「八事日赤」駅を經由し、市バス「東山公園テニスセンター」停留所で降車するルートにかかる運賃460円(地下鉄260円、バス200円)を加算する。なお、運賃は研究時の2014年3月14日午後3時に競技会場の最寄り停留所へ到着するものを統一条件とし、複数の路線があ

る場合には、最も出発時刻が遅いものを選んだ。

計算結果を表 2 に示した。各都道府県からこの競技会場に行くのに、平均 31,623 円（往復）かかる。ここで平均といているのは人数を勘案していない。44 都道府県からの 1 人あたり移動費の単純平均である。実際に移動しているのは表のとおり選手 928 人、審判 58 人、大会役員 21 人で合計 1,007 人である。選手の移動費は総額 2,175 万円、平均 23,445 円であった。審判・大会役員は地元周辺から来ている人が多いが、これを加えて移動費の総額を計算すると約 2,200 万円になる。選手移動費の総額とあまり変わらない。

表2 第75回全日本ベテランテニス選手権大会の参加人数と移動費

都道府県	県庁所在地 (起点)	往復移動費 (1人当たり)	参加人数(人)				移動費総額(円)			
			競技者	審判	大会役員	計	競技者	審判	大会役員	計
北海道	札幌	85,000	29	0	0	29	2,465,000	0	0	2,465,000
青森県	青森	65,880	2	0	0	2	131,760	0	0	131,760
岩手県	盛岡	45,280	3	0	0	3	135,840	0	0	135,840
宮城県	仙台	39,660	4	0	0	4	158,640	0	0	158,640
秋田県	秋田	66,720	0	0	0	0	0	0	0	0
山形県	山形	41,180	3	0	0	3	123,540	0	0	123,540
福島県	福島	37,160	5	0	0	5	185,800	0	0	185,800
茨城県	水戸	29,260	17	0	0	17	497,420	0	0	497,420
栃木県	宇都宮	30,820	9	0	0	9	277,380	0	0	277,380
群馬県	前橋	31,460	16	0	0	16	503,360	0	0	503,360
埼玉県	大宮	27,900	61	0	0	61	1,701,900	0	0	1,701,900
千葉県	千葉	23,540	66	0	0	66	1,553,640	0	0	1,553,640
東京都	東京	22,480	165	0	2	167	3,709,200	0	44,960	3,754,160
神奈川県	横浜	21,680	135	0	0	135	2,926,800	0	0	2,926,800
新潟県	新潟	39,660	4	0	0	4	158,640	0	0	158,640
富山県	富山	18,620	3	0	0	3	55,860	0	0	55,860
石川県	金沢	16,520	0	0	0	0	0	0	0	0
福井県	福井	12,840	1	0	0	1	12,840	0	0	12,840
山梨県	甲府	27,820	2	0	0	2	55,640	0	0	55,640
長野県	長野	36,520	8	0	0	8	292,160	0	0	292,160
岐阜県	岐阜	1,820	15	4	0	19	27,300	7,280	0	34,580
静岡県	静岡	13,280	19	0	0	19	252,320	0	0	252,320
愛知県	名古屋	920	21	50	16	87	19,320	46,000	14,720	80,040
三重県	津	4,620	13	4	1	18	60,060	18,480	4,620	83,160
滋賀県	大津	12,580	3	0	0	3	37,740	0	0	37,740
京都府	京都	12,200	19	0	0	19	231,800	0	0	231,800
大阪府	大阪	13,680	78	0	1	79	1,067,040	0	13,680	1,080,720
兵庫県	元町	14,940	102	0	0	102	1,523,880	0	0	1,523,880
奈良県	奈良	13,680	28	0	0	28	383,040	0	0	383,040
和歌山県	和歌山	17,840	4	0	0	4	71,360	0	0	71,360
鳥取県	鳥取	26,000	1	0	0	1	26,000	0	0	26,000
島根県	松江	30,320	0	0	0	0	0	0	0	0
岡山県	岡山	22,880	16	0	0	16	366,080	0	0	366,080
広島県	広島	28,580	14	0	0	14	400,120	0	0	400,120
山口県	山口	32,340	5	0	0	5	161,700	0	0	161,700
徳島県	徳島	23,220	4	0	0	4	92,880	0	0	92,880
香川県	高松	25,760	2	0	0	2	51,520	0	0	51,520
愛媛県	松山	32,060	4	0	1	5	128,240	0	32,060	160,300
高知県	高知	30,800	2	0	0	2	61,600	0	0	61,600
福岡県	博多	36,980	28	0	0	28	1,035,440	0	0	1,035,440
佐賀県	佐賀	40,260	5	0	0	5	201,300	0	0	201,300
長崎県	長崎	43,400	1	0	0	1	43,400	0	0	43,400
熊本県	熊本	44,860	5	0	0	5	224,300	0	0	224,300
大分県	大分	40,140	1	0	0	1	40,140	0	0	40,140
宮崎県	宮崎	67,400	1	0	0	1	67,400	0	0	67,400
鹿児島県	鹿児島中央	50,820	3	0	0	3	152,460	0	0	152,460
沖縄県	那覇空港	84,920	1	0	0	1	84,920	0	0	84,920
平均/合計		31,623	928	58	21	1,007	21,756,780	71,760	110,040	21,938,580

注：起点は那覇空港を除き県庁最寄の主要駅であり表には駅名を表記した。

### (3) 滞在費の計算

第75回大会は12日間にわたる期間の長い大会だったが、これはカテゴリー（男女・単複）ごとに開催をずらして実施していたため、カテゴリーごとの実施期間は3～6日である。年齢に配慮しているためか1日に1回戦しか組まれないので実施期間が長い。ただしシングルスとダブルス両方に出場する選手は1日2試合の参加があり得る。

滞在費については

- 1) 試合出場の前日に宿泊する。逆に言えば、翌日に試合がない場合は宿泊しない
- 2) 単価は一泊（食費込）12,000円であるとする。

出場者数を大会方式から計算すると、シングルス523人（男子341人＋女子182人）、ダブルス632人（男子344人＋女子288人）となる。一方、実際の参加者数は928人なので、 $523+632-928=227$ 人がシングルスとダブルス「かけもち」で出場していることになる。

トーナメント日程から上記1)にしたがって宿泊数を計算すると、男子シングルス出場者341名の延べ宿泊数は662泊となる（表3）。1人平均2泊弱ということである。「35歳以上」から「70歳以上」は年齢カテゴリーにおける出場者数は同じで、12人（予選出場者） $\times$ 1泊＋32人（予選通過者6人＋本戦からの出場者26人） $\times$ 1泊＋16人（2回戦進出） $\times$ 1泊＋8人（3回戦進出） $\times$ 1泊＋4人（準決勝進出） $\times$ 1泊＋2人（決勝進出） $\times$ 1泊の合計で、それぞれ74泊である。

「75歳以上」は、10人（予選出場者） $\times$ 1泊＋16人（予選通過者5人＋1回戦出場者11人） $\times$ 1泊＋16人（2回戦進出8人＋シード8人） $\times$ 1泊＋8人（3回戦進出） $\times$ 1泊＋4人（準決勝進出） $\times$ 1泊＋2人（決勝進出） $\times$ 1泊の合計で56泊、「80歳以上」は予選がなく、本選出場者8人の宿泊数は上記に倣い14泊となる。

同様に、女子シングルス出場者は182人、延べ宿泊数は350泊で、年齢カテゴリー別の宿泊数は男子シングルス「75歳以上」と「80歳以上」と同じである。

男子ダブルス出場者は344人、延べ宿泊数は648泊、女子ダブルス出場者が288人、延べ宿泊数は544泊となる。それぞれの年齢カテゴリーの宿泊数を計算する際に留意すべきは、最も出場者の多いカテゴリーで2回戦から出場する8組16人がいる点で、計算は32人（1回戦） $\times$ 1泊＋32人（2回戦進出16人＋シード16人） $\times$ 1泊＋8人（準決勝進出） $\times$ 1泊＋4人（決勝進出） $\times$ 1泊の合計92泊となる。

また、ダブルス出場者632人のうち227人はシングルス出場とかけもちで、かつ同じ年齢カテゴリーのシングルスとダブルスは開催期間が同じであるので、ここでは、「かけもち」の選手の宿泊を除外している。式としては

ダブルスだけの出場者の延べ宿泊数:a

ダブルス総出場者数:b

ダブルスかけもち出場者数:c

ダブルス延べ宿泊数（かけもち出場者分ダブルカウント込）：d

として、

$$\begin{aligned} a &= d * c / b \\ &= (\text{男子 } 648 \text{ 泊} + \text{女子 } 544 \text{ 泊}) \times 227 \text{ 人} \div (\text{男子 } 344 \text{ 人} + \text{女子 } 288 \text{ 人}) \\ &= 428 \text{ 泊} \end{aligned}$$

である。

実際には、シングルスで早々と敗退して 2 日後からダブルスが始まるという人もいるかもしれない。この場合、実際の延べ宿泊数は上の式で計算されるものより多くなる。つまり確実に誤差があるのだが、本研究の目的は「実態に近い数字を示すこと」なのでこの計算式を採用する。

上記 428 をダブルス延べ宿泊数の 1,192 から差し引くと 764 泊になる。これにシングルス出場者（こちらはかけもちを含む）の延べ宿泊数 1,012 泊を加えると 2,204 泊、1 泊 12,000 円とすると、この大会に参加する競技者の滞在費総額はおよそ 2,644 万円になる。

表 3 第 75 回全日本ベテランテニス選手権大会の出場者数と宿泊数（延べ）

種目	男子シングルス					男子ダブルス	
	予選 出場者	予選 通過者	本選から の出場者	出場者計	宿泊数	本選から の出場者	宿泊数
35歳以上	12	6	26	38	74	32	60
40歳以上	12	6	26	38	74	32	60
45歳以上	12	6	26	38	74	32	60
50歳以上	12	6	26	38	74	32	60
55歳以上	12	6	26	38	74	32	60
60歳以上	12	6	26	38	74	48	92
65歳以上	12	6	26	38	74	48	92
70歳以上	12	6	26	38	74	48	92
75歳以上	10	5	19	29	56	24	44
80歳以上	-	-	8	8	14	16	28
計	106	53	235	341	662	344	648

種目	女子シングルス					女子ダブルス	
	予選 出場者	予選 通過者	本選から の出場者	出場者計	宿泊数	本選から の出場者	宿泊数
40歳以上	10	5	19	29	56	32	60
45歳以上	10	5	19	29	56	32	60
50歳以上	10	5	19	29	56	48	92
55歳以上	10	5	19	29	56	48	92
60歳以上	10	5	19	29	56	48	92
65歳以上	10	5	19	29	56	32	60
70歳以上	-	-	8	8	14	32	60
75歳以上	-	-	-	-	-	16	28
計	60	30	122	182	350	288	544

注 1：ダブルスには予選がない。

注 2：本文に記載したとおり、実際にはシングルスとダブルス両方に出場している参加者がいるので滞在費の計算に際してはこれを除外している。

資料：JTA 資料より作成



## 2-3 ケース2 全国レディーステニス大会 全国決勝大会

### (1) 大会の概要

- ・名称 ソニー生命カップ第35回全国レディーステニス大会全国決勝大会
- ・開催期間 2013年11月13日(水)～16日(土)
- ・会場 昭和の森テニスセンター(東京都昭島市)

地方予選を勝ち上がった各都道府県の代表チーム(東京都、大阪府、埼玉県は2チーム)合計50チームの全国大会である。1チームは6人で、試合はすべてダブルスである。

### (2) 移動費の計算

基本的にベテラン大会の計算方法(p.7参照)と同じとし、以下に異なる項について記載する。

#### 2) 航空機については

- ・陸路では昭島駅まで6時間以上かかる
- ・空路利用のほうが陸路より2時間以上早い

のいずれかを満たす場合選択するものとする。該当するのは、北海道、島根県、徳島県、愛媛県、高知県、九州7県と沖縄県の13道県である。

3) 出発する駅から最寄りの空港まではバスを利用することができる。これ以外はバスを利用しない。

この条件に運賃検索サイトを使用し、到着地のJR青梅線昭島駅までの料金を算出した。

ベテラン大会でJR名古屋駅まで5時間30分、これに対して全国レディーステニス大会(以下、全国レディース)ではJR昭島駅まで6時間としたのは、ベテラン大会では名古屋駅から目的地にさらに移動するためであり、実質的には目的地まで陸路で6時間という条件になっている。

都道府県別の単純平均は36,591円である。つまり、名古屋市内の会場へ行くより4,968円多い。

つぎに移動費の総額を求める。各県代表は選手6名と監督1名の計7名で構成されている。前述のとおり2チームが出場している埼玉県、東京都、大阪府については、2チーム分の選手12名と監督1名の計13名となる。結果は総額約1,200万円であった(表4)。1人あたり単価は約35,000円である。

この大会では、各チームの観戦者が同行している。そのおよその人数をJTAが把握しているので、これについても移動費を求めると、1,480人で約4,000万円である。1人あたりの平均単価は27,000円強になる。出場チームより応援に来る人のほうが単価が低いのは、会場近隣からの応援が多いことによる。つまり、東京都で開催すれば、

一都三県（埼玉、千葉、神奈川）の代表を応援する人は時間的にも費用面でも会場に来やすいので人数が多く、これが移動費の平均単価を引き下げることになる。とはいえ、移動費は観戦者が多いことによって増えている。

表4 第35回全国レディーステニス大会の参加人数と移動費

都道府県	県庁所在地 (起点)	往復移動費 (1人当たり)	参加人数(人)				移動費総額(円)			
			選手+監督	審判	大会役員	観戦者	選手+監督	審判	大会役員	観戦者
北海道	札幌	70,520	7	0	0	20	493,640	0	0	1,410,400
青森県	青森	33,380	7	0	0	20	233,660	0	0	667,600
岩手県	盛岡	27,280	7	0	0	20	190,960	0	0	545,600
宮城県	仙台	21,400	7	0	1	30	149,800	0	21,400	642,000
秋田県	秋田	33,200	7	0	0	20	232,400	0	0	664,000
山形県	山形	23,100	7	0	0	20	161,700	0	0	462,000
福島県	福島	17,640	7	0	0	20	123,480	0	0	352,800
茨城県	水戸	8,660	7	0	1	50	60,620	0	8,660	433,000
栃木県	宇都宮	9,020	7	0	0	40	63,140	0	0	360,800
群馬県	前橋	9,020	7	0	0	40	63,140	0	0	360,800
埼玉県	大宮	1,380	13	13	5	80	17,940	17,940	6,900	110,400
千葉県	千葉	2,420	7	14	7	90	16,940	33,880	16,940	217,800
東京都	東京	1,380	13	13	9	130	17,940	17,940	12,420	179,400
神奈川県	横浜	1,560	7	12	7	90	10,920	18,720	10,920	140,400
新潟県	新潟	20,780	7	0	0	30	145,460	0	0	623,400
富山県	富山	22,800	7	0	0	20	159,600	0	0	456,000
石川県	金沢	25,020	7	0	0	20	175,140	0	0	500,400
福井県	福井	31,840	7	0	0	30	222,880	0	0	955,200
山梨県	甲府	6,060	7	0	0	40	42,420	0	0	242,400
長野県	長野	13,840	7	0	0	30	96,880	0	0	415,200
岐阜県	岐阜	23,860	7	0	0	30	167,020	0	0	715,800
静岡県	静岡	12,980	7	0	1	40	90,860	0	12,980	519,200
愛知県	名古屋	21,980	7	0	0	30	153,860	0	0	659,400
三重県	津	25,680	7	0	0	30	179,760	0	0	770,400
滋賀県	大津	27,200	7	0	0	20	190,400	0	0	544,000
京都府	京都	26,820	7	0	0	20	187,740	0	0	536,400
大阪府	大阪	28,520	13	0	2	30	370,760	0	57,040	855,600
兵庫県	元町	30,380	7	0	1	30	212,660	0	30,380	911,400
奈良県	奈良	27,880	7	0	0	20	195,160	0	0	557,600
和歌山県	和歌山	31,640	7	0	0	20	221,480	0	0	632,800
鳥取県	鳥取	37,880	7	0	0	20	265,160	0	0	757,600
島根県	松江	71,440	7	0	0	20	500,080	0	0	1,428,800
岡山県	岡山	33,720	7	0	0	20	236,040	0	0	674,400
広島県	広島	37,000	7	0	0	20	259,000	0	0	740,000
山口県	山口	40,860	7	0	0	20	286,020	0	0	817,200
徳島県	徳島	66,500	7	0	0	20	465,500	0	0	1,330,000
香川県	高松	36,380	7	0	0	20	254,660	0	0	727,600
愛媛県	松山	71,040	7	0	0	20	497,280	0	0	1,420,800
高知県	高知	70,840	7	0	0	20	495,880	0	0	1,416,800
福岡県	博多	72,340	7	0	0	20	506,380	0	0	1,446,800
佐賀県	佐賀	77,000	7	0	0	20	539,000	0	0	1,540,000
長崎県	長崎	86,040	7	0	0	30	602,280	0	0	2,581,200
熊本県	熊本	81,380	7	0	0	30	569,660	0	0	2,441,400
大分県	大分	80,840	7	0	0	20	565,880	0	0	1,616,800
宮崎県	宮崎	80,720	7	0	0	20	565,040	0	0	1,614,400
鹿児島県	鹿児島中央	84,240	7	0	0	30	589,680	0	0	2,527,200
沖縄県	那覇空港	54,300	7	0	0	20	380,100	0	0	1,086,000
平均/合計		36,591	350	52	34	1,480	12,226,000	88,480	177,640	40,609,200

注：観戦者は出場チームの各都道府県からの観戦者。

### (3) 滞在費の計算

全国レディースはベテラン大会に比べると開催日数が短く、大会前日が監督会議と組み合わせの決定、大会そのものは翌日から3日間である。1日に最大2試合を行う。初日が1・2回戦で、16チームが勝ち残る。2日目が3回戦と準々決勝、最終日が準決勝と決勝、3位決定戦である。

ベテラン大会と同じように、試合の前日には宿泊するという前提を置く。そうすると、宿泊チーム数は50チーム(初日出場)×1泊+16チーム(2日日出場)×1泊+4チーム(最終日出場)×1泊の延べ70チームになり、1チームは監督含め7人なので、宿泊数は490である。これに単価12,000円を掛けると、選手と監督の滞在費総額は588万円となる。

滞在するのは選手と監督だけでなく、観戦に来た人々も同様であろう。観戦者は1,480人であり、選手・監督の4倍強である。ただし、一都三県(埼玉、千葉、神奈川)からの観戦者390人は、宿泊しないと考える。したがって、滞在費計算の対象となるのは1,090人で1チームあたりにすると24.8人となる。この24.8人を一組として、延べ62組 $[70 \text{ チーム} \times \{50 \text{ チーム} - 6 \text{ チーム (一都三県)}\} \div 50 \text{ チーム}]$ が宿泊する。延べ宿泊者数は1,538人、滞在費用は1,845万円となる。したがって、選手・監督と観戦者の総滞在費用は2,400万円程度となる。移動費が5,200万円なので、総費用は7,600万円である。